

編集後記

昭和50年9月、第28回総会の理事会席上で曲直部会長より提案された日本胸部外科学会第30回の記念行事は、同年12月、麻田第29回会長の最初の理事会で記念誌を発行することに決定された。第30回の早田会長に具体案の作製が依頼されたので第17回宮本会長の時、日大宮本外科の陸川先生が作られた日本胸部外科学会17年の歩みを参考として案を作り、昭和51年1月末、これを理事、幹事に送り皆の意見をまとめて同年4月の理事会に提出し大方の賛同がえられた。この中に編集委員として三枝正裕、塩沢正俊、鍋谷欣市、瀬在幸安、於保健吉、古川欽一の諸先生が含まれている。なお4月の理事会の前に上記諸先生と、特別出席として宮本先生とともに新宿三井ビルの一室で相談をした。

昭和51年5月始め前会長、創立当時の参画者、および特別寄稿の方々にご主旨を盛りこんだ案内状と執筆の諾否のお手紙を差し上げた。これに対して大多数の方のご賛同をえた。一応脱稿の期日を昭和51年11月末とした。10月になってもいただいた原稿は僅かであったので、12月末に延長した。しかし12月末でも原稿の集りが悪いので昭和52年2月まで再延長したが集ったのは95%、止むをえず最終しめ切りを5月中旬としてやっと99%の原稿をいただくことができた。なお昭和52年4月14日編集委員会を開き最終的な編集方針を決定し原稿が集り次第杏林舎へ廻送することにした。執筆された諸先生に対して再三に亘る催促のお手紙を差し上げたことについて編集委員一同恐縮している。

しかし予定通り9月22日よりの第30回胸部外科学会総会の前に会員に配布することができたのは関係者諸氏の努力のおかげである。

なお資料の集取には東京医大外科教室の医局員がこれに当たったので末尾にその名前をあげ感謝するとともに宮本忍先生のご助言に対して深謝する。

編集委員長、早田 義博

編集委員、三枝正裕、塩沢正俊、鍋谷欣市、瀬在幸安、於保健吉、古川欽一

協力者、東京医大外科 河村一太、船津 秀夫、清水正夫、桜内運起